

スポーツが持つ

チ

カラ

仁賀保グリーンフィールドで行われている日本フットボールリーグ（JFL）のブラウブリッツ秋田（BB秋田）のホームゲームには、毎試合、1千人もの市民が駆けつけます。
1千人もの市民が声援を送る、その原動力とは。
今回はその「チカラ」を熟知する秋田フットボールクラブ（株）の次期社長に内定した岩瀬浩介氏と、そのチカラに魅了されている市民サポーターへ行ったインタビューの内容をご紹介します。

インタビューの内容から岩瀬氏の言葉を抜粋して掲載

プロスポーツの力で変わった鹿島

私はJリーグの「鹿島アントラーズ」で有名な茨城県鹿嶋町（現鹿嶋市）で育ちました。鹿島は、住友金属工業の企業城下町で、太平洋に面していることから漁業も盛んな地域です。

私が幼少時代の鹿島は若者離れが深刻でした。企業城下町であるため雇用はあるものの、若者が夢中になれる物が無く、簡単に言えば娯楽が乏しい状況で、定住する若者が少なかったのです。第1次産業で生計を立ててきた古くからの住民と、工業団地で働く新しい住民との交流も無く、活力のない町でした。
しかしそんな鹿島が「サッカーのまち」として全国的に有名になり、活気にあふれるまちに

なったのは他でもなく、鹿島アントラーズがもたらす「プロスポーツの力」でした。

鹿島アントラーズの前身が、地域経済を支えていた住友金属工業の企業チームというところもあり、当時の鹿嶋町の強い働きかけや、茨城県の強力なバックアップ（県立カシマサッカースタジアム建設）等により、Jリーグ初年度からJリーグ加盟を果たすことに。ここで町は一変します。爆発的なJリーグブームに町が湧いたのです。

人口が約3万人と少ないことから観客動員が危惧され、Jリーグのお荷物呼ばわりするマスコミをよそに、地域に根付いていた企業チームがプロチームになったことを住民は誇りに思い、老若男女問わず肩を組んでスタジアムに足を運びました。スタジアムは毎試合超満員。そして

スポーツで一体になれるにかほ市

私がTDKサッカー部に所属した年に、にかほ市が誕生しました。翌年TDK野球部が都市対抗野球で全国制覇という快挙を成し遂げました。同年TDKサッカー部も地域リーグで優勝しJFLへ昇格。この年は正にかほ市がスポーツの力で一体となった年だったことを覚えています。更に平成19年には横浜FCのサマーキャンプが行われ、

誕生の地にかほでもJリーグ入りの気運を

親善試合で仁賀保グリーンフィールドは5千人もの市民で溢れました。そして同年の秋田県体成功。この2年は、にかほ市民の皆さんもスポーツが持つ力を実感出来た2年だったのではないのでしょうか。その活気を一過性の物ではなく、私の故郷鹿島のように何十年にもわたり、スポーツで活気を生むにはやはりプロスポーツチームの存在が必要と考えると同時に、それが我々BB秋田でありたいと強く思っています。



岩瀬浩介氏 30歳
・茨城県鹿嶋町（現鹿嶋市）生まれ
・平成17年秋田県国体強化指定選手としてTDKSC入り
・BB秋田でも1年間プレーし平成22年現役引退
・秋田フットボールクラブ株の次期社長に内定

にかほ市が更に活気溢れる町になってほしい。それが我々の願いです。

実は、今シーズンリーグ戦で優勝したとしてもBB秋田はJリーグには上がれないんです。それはJリーグに加盟出来る条件をクリアしていないからです。上位でシーズンを終えること、ホームタウンである自治体のバックアップが確立されている事等さまざまな条件がありますが、最も困難な条件は最低1万人以上を収容できる『ホームスタジアムが存在すること』なんです。この条件をクリアするには今ある県内のサッカー場の増改築あるいは新築が必要になり、行政に頼るしか道がない状況です。しかし行政も「はいそうですか」とすぐに建設してくれるはずもありません。やはりその為には、好成績や観客動員数増加は必要ですが、目には見えない効果や活気といった部分のいわゆる『気運』が求められていると考えています。この気運を盛り上げていく為に、チームも秋田市を中心に県内各所を飛び回り活動をしています。もちろんチームが深く根ざしているにかほ市での

気運も必要不可欠です。我々BB秋田は会社こそ秋田市にありますが、普段の練習の拠点は、にかほ市です。冬季はとんがり童夢パオ、シーズが始まれば金浦のTDKASCや仁賀保グリーンフィールドを使わせていただいています。選手数もにかほ市に在住していますし、熱狂的なサポーターも圧倒的ににかほ市の方が多いです。そして何より誕生の地です。

BB秋田の前身であるTDKサッカー部によるサッカー文化やスポーツを応援する文化が色濃く残っている、にかほ市は鹿島に酷似しており、ストーリーが出来ています。
ここにかほ市で更なる気運を盛り上げ、Jリーグ入りを果たし、地域の未永い活力の源になりたいと考えています。

3年目。勝負の年（変革）

BB秋田が発足し3年目となりました。なつてしまったというのが正直な所でしょうか。チームはこの3年目を勝負の年と捉えスローガンを『変革』としま

ブラウブリッツ秋田の概要

- ・チームの前身TDKサッカー部が平成17年にJFL昇格
・平成22年北東北初のJリーグ入りを目指しクラブチーム「ブラウブリッツ秋田」へ移行
・運営会社は秋田フットボールクラブ株式会社（秋田市）
・にかほ市民が考案した「ブラウ」（青）と「ブリッツ」（稲妻）を合わせた造語がチーム名称
・チームは3年目となる今シーズン、スローガン～変革～を掲げリーグ上位進出を目指す
・県のスタジアム整備調査費予算可決を受けJリーグ準加盟申請を予定中

した。言葉だけでなくフロントや監督・スタッフ、更には選手に至るまで大きく入れ替わりました。そして、グラウンドでその変革したプレーをにかほ市の皆さんにお見せできるよう、今エンジンを温めています。
4月1日、仁賀保グリーンフィールドで行われる「にかほ開幕戦」で変革した我々を見に来てください。スポーツの持つ『チカラ』を実感していただけることを確信しています。